

6/5(月)

遺伝子組み換え稻栽培実験

中止求め仮処分申請

地裁高田支部

農家や「安全性など不安」

中央農業総合研究センター北陸研究センター
(上越市)が屋外で進めている耐病性のある遺伝子組み換え稻の栽培実験に対し、上越市の農家や新潟市の消費者ら十二人

が二十四日、地裁高田支
部に作付け禁止などを求
める仮処分を申請した。
代理人によると、組み換
え稻の作付け実験中止を
求める申し立ては全国初
といふ。

は、上越市の二農家、同
市と新潟市の消費者十人
を指摘している。
申立て側で上越市の
の計十一人。申立書によ
ると、導入遺伝子が食用
農家、山田稔さん(二十九
歳)は「食

止を求めたい。司法の判断を注視したい」として申立て側代理人の神山美智子弁護士は「周辺農家にとって、人為的な病原菌の耐性実験による感染の不安や、交雑の可能性を否定できないことに

お風評被害をもたらす

だけで何の利益にもなら

ない」と強調した。

一方、同センターは二

十三日、一回目の田植え

を二十九日、同センター

の隔離は場で公開実施す

ると発表した。

同センターの説明は、十

二年六月二十六日

新潟日報(朝)

2005.6.25

止を求めたい。司法の判断を注視したい」として申立て側代理人の神山美智子弁護士は「周辺農家にとって、人為的な病原菌の耐性実験による感染の不安や、交雫の可能

性を否定できないことに

お風評被害をもたらす

だけで何の利益にもなら

ない」と強調した。

一方、同センターは二

十三日、一回目の田植え

を二十九日、同センター

の隔離は場で公開実施す

ると発表した。

同センターでは先月末

に一回目の田植えを実

施。二回目の田植えは、

出穂、開花も調査するた

め、生産者から花粉

飛散などを懸念する声が

挙がっている。

長は「申立書の内容を見

ていいのでコメントで

いよいよ」しながらも、

「あくまで試験研究で、

交雫防止には万全の態

勢を取っている。二十九

日の栽培実験は予定通り

進めた」と話してい

る。